

授業科目名	経済経営特論（経営管理Ⅲ） 経営管理Ⅲ	※選 択	開講年次	2	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	英語ができなくても異文化経営に強くなれる	担当者	野呂 一郎			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>グローバル化とは、国境を越えて国や企業が相互依存をますます強めている現象のことだ。グローバル化の流れは間違いなく加速する。企業の経営管理も、グローバルにならざるを得ない。では英語か？いいや、英語が得意でなくても、異文化への理解、異文化に対しての経営はどうあるべきかの知識さえあれば、グローバル化に十分対応できる。それが異文化経営管理の力だ。楽天やユニクロみたいに英語を公用語にする前に、学ぶべきはこれだ。本講義では、将来外資系企業や海外で働きたい学生の皆さんに、必ず役に立つ内容を盛り込んだ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>講義を通して、異文化を尊重し、異文化に畏怖の念と強い興味を持つようになること。さらに、異文化経営についてベーシックな概念を理解すること。</p>					
履修条件	経営管理Ⅰ、Ⅱや企業論を履修している必要はない。将来何らかの形で、海外に関わりたいと思う学生には取ることをすすめる。					
教科書・参考書	<p>【教科書】なし。毎回オリジナルのプリントを配布する。</p> <p>【参考書】「ナウエコノミー -新・グローバル経済とは何か-」 学文社 野呂一郎</p>					
授業回数	内容					
1	異文化とは何か					
2	コミュニケーションとは何か					
3	異文化コミュニケーションとは何か					
4	異文化コミュニケーションの理論紹介					
5	異文化経営理論の紹介					
6	ドイツでの異文化経営の実際					
7	韓国での異文化経営の実際					
8	トヨタはなぜ、アメリカで失敗したのか					
9	ケース・スタディ①WWEの日本マット侵攻戦略					
10	ケース・スタディ②吉野家はなぜ、ロスアンゼルスで成功したのか					
11	ケース・スタディ③バドワイザー日本撤退の理由					
12	日本の企業の国際化を阻む要因：子供の教育					
13	韓国はなぜグローバルに強いのか					
14	プロレスラー蝶野正洋にみる、異文化コミュニケーションの真髄					
15	アメリカ留学はグローバル時代に役立つか					
評価方法	定期試験					
評価基準	学習した内容をよく理解した者には「A」、不足がある場合にはその程度により「B」または「C」とし、出席、参加度または達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	<p>“野呂一郎のナウエコノミー” http://archive.mag2.com/0000234593/index.html も参考に。</p> <p>※Eカリキュラム（経営法）コースの学生は選択必修科目</p>					